

# つれづれなるままに 第6号

平成30年7月19日（木）発行



校長 深谷 浩一

## 土俵際、「残った！」 ～牛久栄進に追加点与えず！～



3回戦の相手は牛久栄進高校でした。球場は2回戦の時と同じ笠間市民球場でした。打順は2番に小沼君（2年）を、ピッチャーに高橋君を入れ、1回戦と同じスターティングメンバーで試合が始まりました。

1回の表、いきなり先制されましたが、センター高野君の好返球があり、追加点を防ぐことができました。その裏、今度はすかさず中央の反撃です。1番高野君はライトフライで倒れたものの、2番小沼君がレフト前2ベースヒットを放つと、松井君（3年）、磯君（3年）もデッドボールで出塁し満塁となると、6番石田君（3年）がショートのを越えるヒットで2者を返し、逆転に成功したのです。

2回にも8番高草木君（3年）がレフト前ヒットで出塁した後、すかさず盗塁を決めました。ピッチャーの高橋君はサード側にバントしてランナーを3塁に送ると、相手ピッチャーのパスボールを誘い、1点を追加しました。

その後、両チームとも無得点が続き、6回までで本校が3対1とリードしました。ところが、7回に入り、先発高橋君のボールは相手打者にタイミングを合わされるようになり、1点を失い、とうとう1点差に詰め寄られてしまいました。

1アウトを取ったところで、高橋君から川名君にスイッチ、川名君は何とかその後の失点を食い止めました。追加点が欲しい本校でしたが、7回、8回と走者を出すものの得点には至らず、最終回を迎えました。ここでも川名君が渾身のピッチングで無得点でしのぎ、勝利を手にすることができたのです。この勝利で本校は2年ぶりの4回戦進出を決めたのです。

過去10年を振り返ってみると、3回戦以上に勝ち上がった年が3回（2008年、2011年、2016年）あり、最も上位は、2008（平成20）年の準々決勝（ベスト8）でしたが、2年前の2016年は、3回戦で境高校に7対5で勝利し、続く4回戦で常総学院に3対8で敗れたのでした。そして、3回戦以上に進出した3回とも最後は常総学院に敗れているのです。

ちなみに、次の4回戦で境高校に勝った場合は、またもや常総学院とあたることになるようです。優勝するためには、常総学院は絶対破らなければならない相手だということなのでしょう。



今回は試合が20日に予定されているため、全校応援をするために、終業式を1日繰り上げて実施します。野球応援は笠間市民球場に現地集合となりますので、熱中症対策に万全を期して各自、球場に集まってください。（つづく）

